

貝塚で「恋人の聖地サミット」

地域活性化など有効活用を

デザイナー桂由美さんら活発議論



デザイナーの桂由美さん（左から2人目）らを迎えて開かれた「第1回恋人の聖地サミット」――貝塚市役所

全国の観光地からプロポーズにふさわしいロマンチックなスポットとして選ばれた「恋人の聖地」を地域活性化などに有効活用しようとして、関係自治体などが参加した「第1回恋人の聖地サミット」が貝塚市役所で開かれ、議論が交わされた。

恋人の聖地プロジェクトは、NPO地域活性化支援センター（静岡市）が平成18年4月に始め、これまでに大阪府の「お初天神」や兵庫県の「竹田城跡」など自治体の関わる139カ所とサテライトと呼ばれる滋賀県の「八幡山ロープウェイ」など企業や団体が管理する88カ所が選ばれている。

貝塚市では、身分の違いを乗り越えて結ばれた恋愛成就の物語「お夏清十郎伝

説」が伝わる水間寺愛染堂が29年1月に選定されているほか、藤原龍男市長が恋人の聖地観光協会の会長を務める縁もあり、初会合を同市で開いた。

会合には顧問で聖地の選定委員も務めるファッションデザイナー、桂由美さんから同協会役員7人も出席。同協会の意義と活用可能性を議題に加盟団体間の情報共有の方法や活動活性化策などを話し合った。

この中では、情報共有について、成功事例集をつくらせて団体間で広めることや、組織強化、次回サミットを大規模に開く方針を確認。同協会が全国組織として認知されるよう知名度を高める必要性についても議題となった。

長年ブライダルに携わり、少子化社会を憂う桂さんは会議に先立つ会見で

「官民挙げての取り組みが必要。多くの知恵を集めて、もう一歩先の行動を起こしたい」と発言。会長の

藤原市長は「少子化対策と地域活性化に向け、広く知見を集めて発展させたい」と述べた。